

令和5年度決算の概要

1 一般会計

※ 端数処理のため、計算が一致しない場合があります。(次頁以降も同じ)

歳入総額 1兆1,272億9,037万円(前年度比 △819億4,093万9千円、6.8%減)

歳出総額 1兆1,106億3,249万4千円(前年度比 △765億9,101万6千円、6.5%減)

実質収支額 歳入歳出差引額は166億5,787万5千円となり、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は83億2,978万円、前年度比 △16億1,292万5千円、16.2%の減となりました。
 なお、このうち約26億円は新型コロナウイルス感染症関連の国庫支出金の不用額であり、今後国への返還が予定されるため、これを除いた実質収支額は57億円余となります。

【前年度比較】

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度決算額 ①	令和4年度決算額 ②	比較増減 (①-②)	前年度比
歳入総額	1,127,290,370	1,209,231,309	△81,940,939	93.2
歳出総額	1,110,632,494	1,187,223,510	△76,591,016	93.5
歳入歳出差引額	16,657,875	22,007,799	△5,349,923	75.7
翌年度へ繰り越すべき財源	8,328,095	12,065,093	△3,736,997	69.0
実質収支額	8,329,780	9,942,706	△1,612,925	83.8

2 特別会計(11会計)

歳入総額 4,485億3,305万1千円(前年度比 △85億9,273万8千円、1.9%減)

歳出総額 4,380億1,059万4千円(前年度比 △69億9,355万円、1.6%減)

実質収支額 歳入歳出差引額は105億2,245万7千円となり、翌年度へ繰り越すべき財源は計上されていませんので実質収支額も同額で、前年度比 △15億9,918万7千円、13.2%の減となりました。

【前年度比較】

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度決算額 ①	令和4年度決算額 ②	比較増減 (①-②)	前年度比
歳入総額	448,533,051	457,125,790	△8,592,738	98.1
歳出総額	438,010,594	445,004,145	△6,993,550	98.4
歳入歳出差引額	10,522,457	12,121,645	△1,599,187	86.8
翌年度へ繰り越すべき財源	0	0	0	-
実質収支額	10,522,457	12,121,645	△1,599,187	86.8

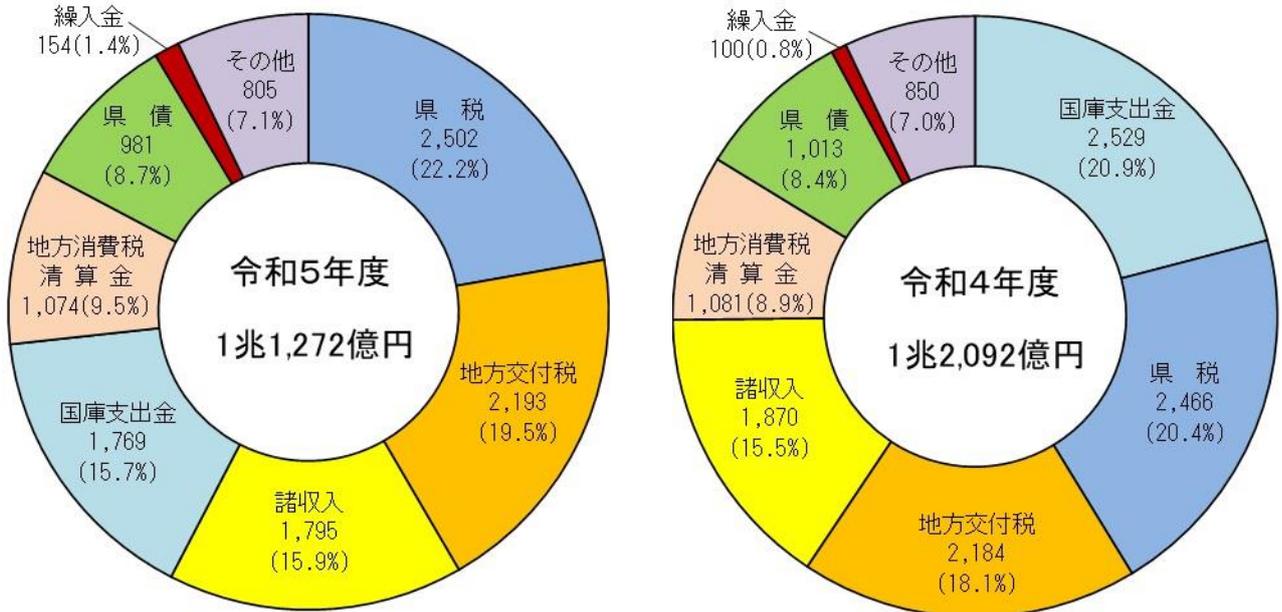
【一般会計の歳入状況】

○ 対前年度増減額が大きい款

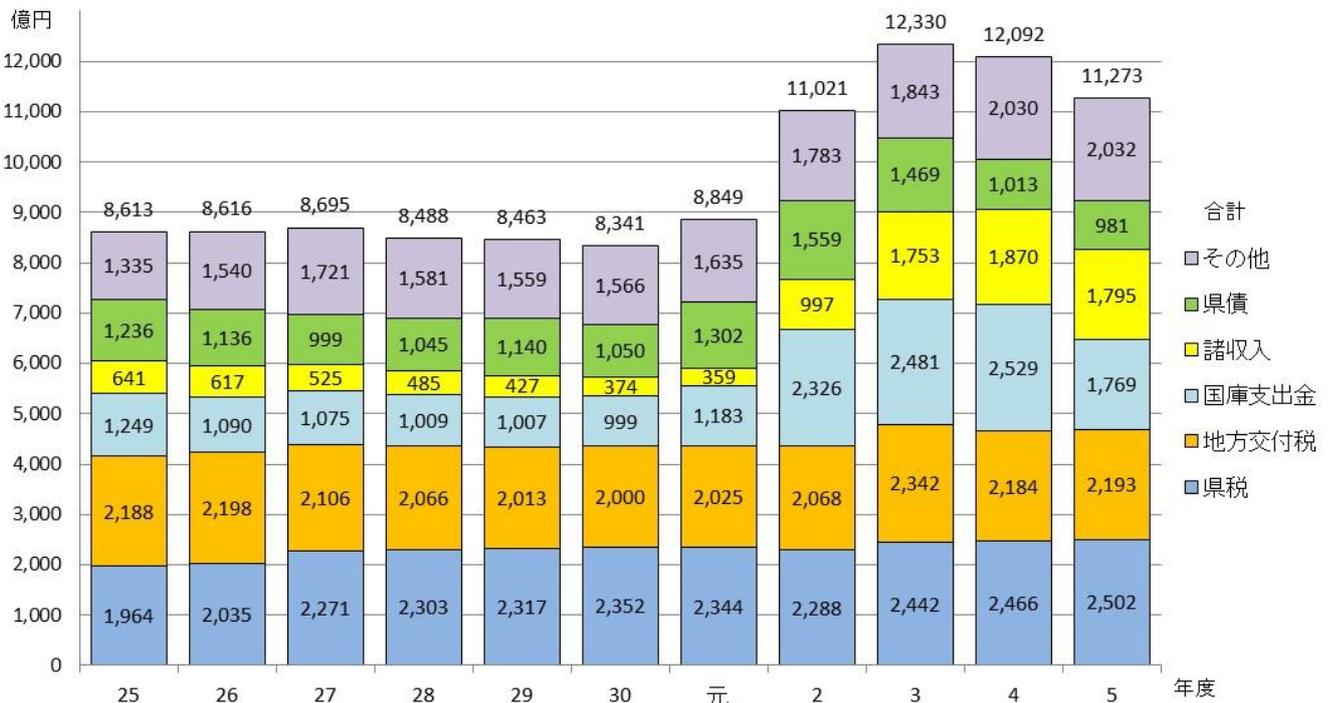
(単位：億円)

	款	R 5	R 4	増減額	主な要因
増	繰入金	154	100	+ 54	・減債基金取崩額の増 (+40.0) ・財政調整基金取崩額の増 (+22.0)
	県 税	2,502	2,466	+ 36	・個人県民税の増 (+24.9)
減	諸 収 入	1,795	1,870	△ 75	・中小企業融資制度資金貸付金返還金の減 (△56.1)
	国庫支出金	1,769	2,529	△ 760	・新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の減 (△259.5) ・訪日外国人観光客周遊促進事業費補助金の減 (△234.7) ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減 (△128.6)

○ 款別構成比の対前年度比較



○ 過去10年間の推移



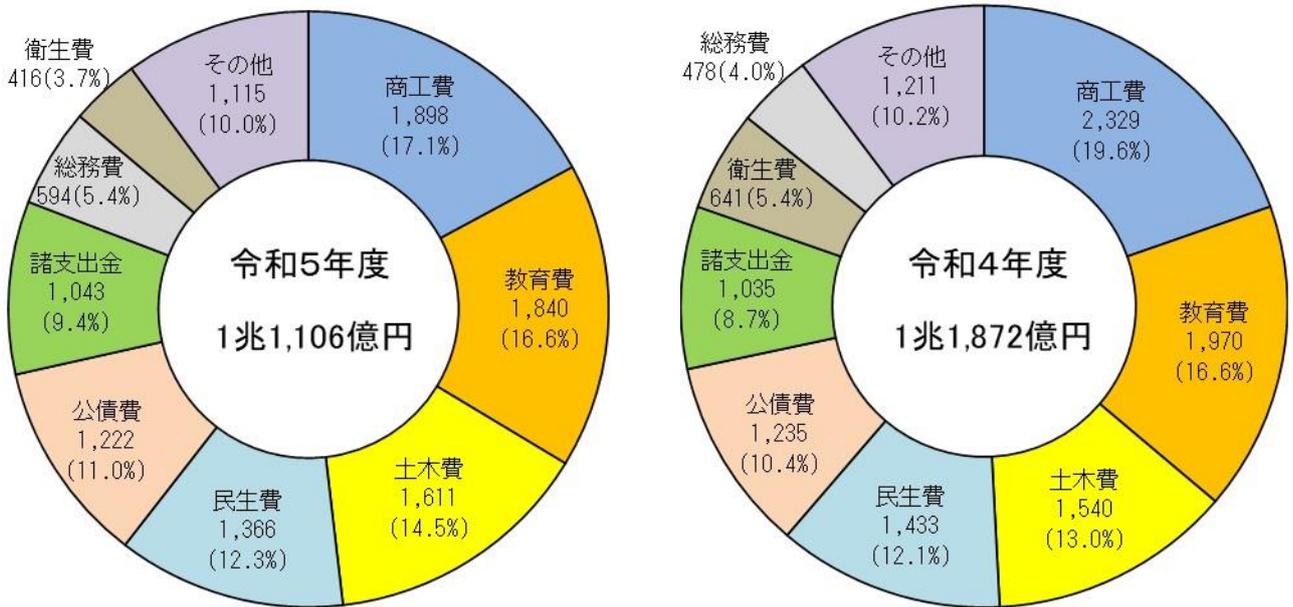
【一般会計の歳出状況】

○ 対前年度増減額が大きい款

(単位：億円)

	款	R 5	R 4	増減額	主な要因
増	総務費	594	478	+ 117	・こどもの未来支援基金積立金の増 (+100.0) ・退職手当基金積立金の増 (+67.0)
	土木費	1,611	1,540	+ 71	・河川改修費の増 (+44.5) ・道路橋梁維持費(橋梁補修費)の増 (+23.0)
減	衛生費	416	641	△ 225	・新型コロナウイルス患者受入病床確保料の減 (△135.0) ・新型コロナウイルス軽症者等受入施設等確保事業の減 (△61.0)
	商工費	1,898	2,329	△ 431	・国内誘客回復緊急対策事業費(全国旅行支援)の減 (△234.7) ・新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金事業の減 (△162.5) ・中小企業融資制度資金預託金の減 (△56.1)

○ 款別構成比の対前年度比較



○ 過去10年間の推移

